

一般質問



△高橋議員▽

紋別高校へのバス通

学について。

一、朝と帰りのバスで

生徒が座りきれない。

重たい鞆を背負って1

時間20分もバスに乗っ

問 通学バスの座席が少ないが

答 利用者の工夫で対応を

て行くため、相当の負担となっている。滝上高校が閉校し、否応なしに町外に通わなければならぬ中、対応策はないか。

二、子どもが始発バスに乗るために、本流の酪農家は搾乳を中断させて毎日送ってきている。子どもを通学させるために生業を中断させなければならぬのは問題である。対応策を考えているか。

△長屋町長▽

一、今年度、紋別高校にバスで通う生徒は32名。平日一般の利用者と合わせると40名近くの利用者があるが、座席数が37あるので、座れる席は、行きも帰りもある。

バス会社も高校に向いてマナー向上の講習会を開催し、特に朝夕のバス利用については隙間なく座る、鞆な

どは膝元や通路に置くようお願いをしている。現実的な対応としては上渚滑で一旦下車し、上渚滑始発のバスに乗り換える取り組みが、通学生徒の中で浸透することを望んでいる。

△奥田教育長▽
二、最寄りの紋別行きバス停まで4km以上ある場合には、距離に応じてガソリン代を補助している。

△長屋町長▽

今後5年程度を見通した時に、対象者は多くて1名の見込みである。町で車を用意してバス停まで送迎するのは難しい。

酪農業の方は、送迎する時間が搾乳の時間に重なるという家庭の負担があると思うが、現時点ではガソリン代の補助に代わる他の支援策は考えづらい。

△高橋議員▽
一、生徒だけの場合にはほぼ大丈夫だが、一般の方が乗られると座れなくなると聞いています。

もっとと人数の乗れるバスを町が補助して購入してもらい、子ども達をゆっくりと通わせてあげるとは考えられないか。
二、何とかする方法を探し出すのが行政の仕事ではないか。

△長屋町長▽

一、実際に職員が乗車して調査したら、上渚滑で乗り換えた生徒もいた。又、学年ごとに座る席が決まっているので、一般客の横には座らないようだ。工夫することで対応できる。

バスの大型化は、赤字補てん分を滝上町と紋別市で負担している現状では、紋別市の負

担も増えるため難しい。一部立つ場面もあるかもしれないが、工夫して利用するのが望ましい。

△奥田教育長▽
二、通学費と併せて下宿費の補助もあるので、家庭の状況に応じ、現在の補助制度の中で活用していただきたい。

△高橋議員▽

二、自宅から通いたいという子が自宅から通えなくなるといことが問題だ。それが一人だろが対応すべきではないか。

△奥田教育長▽
二、令和4年度から道の補助がなくなるので内容見直しが必要になるかもしれない。その時の一つの考え方として参考にする。